

## P1-005

働く女性の母乳育児継続に関する体験から  
考える母乳育児支援

安積 陽子

北海道大学大学院保健科学研究院

【目的】本研究は、就労女性の体験から母乳育児継続の困難や支援のニーズを明らかにするため、働きながら母乳育児を継続した女性の体験を記述することを目的とする。

【方法】A市内の大学内にポスターを掲示し研究参加者を募集した。2019年7月～9月に出産後に働きながら母乳育児を継続した女性3名を対象に半構成的面接を実施した。データ収集は所属する大学の研究倫理委員会の承認を得て実施した（承認番号：18-96）。得られたデータから逐語録を作成し、働きながら母乳育児を継続した体験の語りに着目し質的記述的に分析しカテゴリ化した。

【結果】分析の結果、132のコードが抽出され、48のサブカテゴリ、19のカテゴリ、5のコアカテゴリに分類された。5つのコアカテゴリは、【働きながら母乳育児を継続することへの思い】、【母乳育児を継続するための自らの努力】、【母乳育児継続を後押しする環境や支援】、【母乳育児を続けていくうえで困難な体験】、【働きながら母乳育児を継続して必要だと感じた支援のニーズ】であった。

【考察】母親の体験より、就労女性への母乳育児支援として以下のことが重要であると考えられた。1. 仕事と母乳育児の両立に向けて、妊娠中から復職後まで専門職が継続的に母乳育児支援を行うこと。2. 家族の母乳育児への理解を促すことや、母親の気持ちに寄り添う共感的な関わりにより母親の母乳育児への思いを尊重した支援をすること。3. 職場内の搾乳環境や勤務中に保育所に授乳に行ける環境の整備など、職場から母乳育児への理解や支援が得られること。4. 保育所の労働環境が改善され母乳育児への協力体制が整備されることや、保育士が母乳育児の知識を身につけ保育所による母乳育児支援が充実すること。

【結論】就労女性の母乳育児の継続には本人の思いや努力だけでなく、母親の周囲の環境や支援が後押しとなっていた。また、仕事と母乳育児の両立に伴う苦悩や支援のニーズがあげられ、就労女性に対する母乳育児支援の重要性が示唆された。また、実際の母親の体験から、母親の母乳育児への思いを尊重し、妊娠期から復職後まで継続的に支援を行うこと、職場や保育所から母親のニーズに合った協力が得られることが就労女性への支援として必要であると考えられた。